



## 2月22日

今年12月1日、附属川崎病院は新築移転し「川崎医科大学総合医療センター」として新たなスタートをきります。

学園創設者 川崎祐宣先生は、医療、医療福祉、医学医療教育の三大事業を完遂されましたが、そのスタートは、附属川崎病院の前身である外科昭和医院の昭和13（1938）年2月22日の開院です。今年で開院78周年となります。

次のお話は、1968年2月22日の川崎病院開院30周年記念式典の挨拶の中で、川崎祐宣先生が「30周年記念史に書かれていない私の歴史」として話されたものです。（※紙面の都合上一部削愛。）



川崎学園創設者 川崎祐宣先生  
明治37年2月22日鹿児島県生まれ  
今年は生誕112周年、没後20年

どういう訳で、鹿児島に生まれ鹿児島で育った私が岡山にまいったのであります。

私は鹿児島の第七高等学校を卒業いたしまして、私と同じ位成績のよくない連中と一緒に京都帝国大学の医学部を受験したのであります。今でも同じですがその当時も東京帝国大学が一番難しくて、その次が京都、その次が九州帝国大学の医学部であります。

そういうことで私は京都ならひょっとして入れるかもしれないということで、ちょうど同じ位の成績の連中2人と話し合いをして、同クラスの3人が受験したのであります。2人は合格いたしましたが、私は落伍しました。

そういたしまして、岡山の医科大学に流れ着いたとでも申しましょうか、涙をのんで入学したのでございます。つまり京都に落第したから岡山におれるのでございます。

次に、私が大学に入学しましたら私の郷里の先輩でもあり又同じ第七高等学校造士館の先輩でいらっしゃる津田先生が、大学の外科の教授として既にいらっしゃるということが判りました。学生時代から卒業するまで、非常に親しくして頂きました。卒業いたします時分に、私の家庭事情が次第に悪くなりまして、2年間しか大学に残って勉強することができませんでした。そのことを津田先生に申しあげました。津田先生は「2年でだいたい君が外科の専門医としてやっていけるようにしてやろう」というようなお話を、私は津田先生の門下生としてお世話になったのであります。

2年経ちまして、津田先生がちょうど約束通りに市民病院に行かして下さったのであります。そして5年経ちました頃に津田先生が私に、自分が小林弘道という若い医専出の医者の入局を頼まれたけれども、君の所であずかって勉強させてくれないかというようなことで、小林弘道君をあずかりましたのが昭和12年の春でございます。その時分に市民病院の外科は3人の定員しかなかったのであります。



岡山医科大学 津田外科教室（2列目中央が本人）

小林君は無給の医員であります。その小林君がその年の暮になります、私に、家からの仕送りが来年3月までで絶えるので、私はどこか田舎の診療所にでもいって給料をもらわ



外科川崎病院 開院の頃

なくては生活ができないということを申し出てまいりました。小林君をあずかるときに私は小林君には、2年間おつたら外科の専門医として立っていていけるような下地だけ作ってあげる、ということを津田先生と同じように申しあげた以上、何とかしてあげたいと思っておったのでございますが、小林君に、君もし夜間開業する気があるなら私も手伝ってあげるから、7、80円の収入が得られれば、1年間位夜間開業してみるかという話しをしたのであります。そうしたら小林君が非常に喜びまして、ちょうど当時空家になっていました富田町の家を借りまして、そこで小林君と一緒に、小林君の名前で夜間開業したのがちょうど30年前の今日であります。（※外科昭和医院1938年2月22日開院）

開業しましたところが、小林君じゃなくて、私に診てもらうために来る患者がほとんどであります、非常に患者がたくさんくるようになりました。7、8ヶ月たって、その年の暮頃になりますて津田先生に呼びつけられたのであります。

津田先生は、「君は市の公務員であって夜間開業しているということは好ましいことではない。公私混同してはいけない。清廉潔白でなくてはいけない」というようなことを私にやさしく諭して下さいました。私はその時冷汗をかいたような気持でありましたし、又悟るところがありました。

自分はそれじゃあ開業しようと決心をしたら、ちょうどその時に小林君に召集令状がきました、小林君も岡山の地を去るようになりました。そして、その翌々月の2月に現在病院のあります所の前の奥村先生の所に、市民病院の外科医長をやめて開業したのであります。（※外科川崎病院1939年2月22日開院）

こういうことで、私ができが悪かったために岡山に流れてきたところが、津田先生がおられた。津田先生の人格と学問を慕うて、津田先生の弟子入りをしました。津田先生の紹介で小林君を私があずかった、その人が金に困って夜間開業を薦めたために、私は今日岡山で30周年を迎えることになったのであります。